

柏谷和夫の観察日記より。八王子・湯殿川に今年もクイナが戻ってきました。11月1日の野鳥定期カウントでの出合です。警戒心が強くツルヨシの株元に隠れていて、しばらく待っても水辺に出て来ませんでした。写真の草叢の中のクイナを探してみて下さい😊

# 紅葉台



# 新聞

## 柏谷和夫の観察日記



八王子・浅川にいるシラサギはダイサギ(大鷺)とコサギ(小鷺)です。この2種は大きさが違いますが、別々にいるとどちらのサギか、見分けが難しいです。違いは「脚」の色です。ダイサギは脚の全てが黒色ですが、コサギの脚は指が黄色です。コサギは浅い水辺で、足をふるわせるようにして魚を捕りますが、指の黄色が魚を追い出すことに役立っているのかもしれません。



10月頃は里山や公園などで蝶が目立ちます。黄色いキタキチョウ、モンキチョウ、茶色系のキタテハ、ツマグロヒョウモン、ヒメアカタテハ、蛾に似たイチモンジセセリなど。この写真は八王子・川町谷戸で撮つたもの(10月30日)、翅の縁には大小の突起があるので直ぐ識別できます。外来種のコセンダングサも開花の真最中です。こんな小さい花でも蝶のお腹を満たす蜜が満たされているのですね。

## 野火止用水が「伊豆殿堀」と言われる所以

野火止用水は、東京都小平市から掘り起こし、武蔵野の乾いた大地である野火止大地を経て、新河岸川にいたる全長約24kmに及ぶ用水路。秋晴れの11月4日歴史に詳しい植木裕子さんと探訪しました。



西国分寺で武蔵野線に乗り換え新座で下車。新座駅前には大きな水車が展示してあります。ここはかつて水が豊富で水車を動かし、米や麦をついた名残を象徴しているのではと思われました。

新座駅から歩いて30分ほどで野火止用水が流れる野火止緑道と称する遊歩道に到着します。野火止用水の川幅は狭いが水の勢いは強く、水量は豊かでした。多摩川から玉川上水を得て、はるばると運ばれた水が流れています。370年も前に延々と掘られた苦心の用水。用水を見守るようにシラカシやクヌギなどが林立していて周りは広々とした畠が広がっています。高い建物ではなく、空が大きく感じる。畠の中央に立派な墓が一つありました。この辺りの地主なのだろうか「並木」と墓石に。川辺には秋の風物詩の柿の木に赤い実がたくさんついていて長閑な風景でした。西分集会所付近は虫の生息地で保護活動がされている看板がかかっていました。水面が緑色に輝きかつての生活を偲ぶ。しばらく行くと、お地蔵さんが一体佇んでいます。伊豆殿橋と書



かれた橋の下に当時の人々の生活が写真で紹介されていて当時を偲ぶ。



「伊豆殿橋」と書かれた橋の名前は、用水開削を指令した幕府の老中で川越藩主も務めた松平伊豆守信綱にちなんでいる。信綱は、江戸の人口急増に伴う上水不足対策として、1653年に多摩川から玉川上水の分水を幕府に命じられ、翌54年に完成させた。その功績によって領内の野火止への玉川上水からの分水を許可され、55年に家臣の安松金右衛門に命じて開削した。関東ローム層の乾燥した土地に、飲料、生活用水ばかりか、新田開発も提供した。人々は用水に感謝し、「伊豆殿掘」と唱えたのである。

ところが、1949年ごろから生活用水が入り、汚染が始まる。そのため生活用水や飲料水としての利用が出来なくなりました。また、1964年関東地方が干ばつに見舞われ、東京の水不足も追い打ちをかけました。そのため野火止用水への分水が中止されました。しかし、文化的業績のかけがえのない野火止用水を残そうと、新たに「清流対策事業」を実施し、1987年に野火止用水に清流を復活させました。

(紅葉台新聞200号で紹介した玉川上水駅近くの玉川上水から始まる野火止用水への分水は昭島市から排出される浄水場の水を流用しています。)



禅宗の名刹平林寺は、室町時代に創建された。川越藩主を務め、その才知から「知恵伊豆」と称された松平伊豆守信綱の菩提寺であり、1族の廟所があります。広大な境内は、約30,000坪の広さ。東京ドーム9個分あると言われています。平林寺の境内林は、クヌギやコナラなど、武蔵野の林で昭和43年1968年国の天然記念物に指定されました。あちこちから野鳥の鳴き声が聞こえました。ここを歩くだけでもゆうに1時間はかかりました。

このように人々の生活を潤し、新田開発へつなげた野火止用水の存在は大変大きなものがあります。玉川上水と野火止用水は江戸時代の人口増加による新田開発や飲料水などの確保に貢献しました。水を遠くまで引く技術の進歩と人々の知恵が結集して作られた用水は後世にも語り継がれていくに違いありません。私たちは水があってこそ生きていくことが出来ます。先人の知恵と努力、そして水がもたらす恩恵を感じる探訪でもありました。

平林寺 入山料 500円



紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。